

TOTO

台所用シングルレバー混合栓

TK50型・TK51型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1 安全上の注意

(安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があることを示しています。



○は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「分解禁止」を示します。

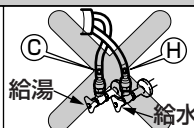


●は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

警告

湯水を逆に配管しない

水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。



禁止

給湯温度は85℃より高温で使わない

85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。



寒冷地用

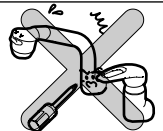
水抜コックは水抜き以外の目的で開けない

水抜コックをいきなり開けると高温の湯が出て、やけどをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。



分解禁止

この説明書に記載された項目以外は、分解・改造しない
破損して、やけど・けがをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。



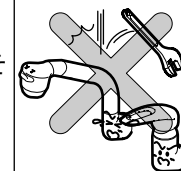
注意



禁止

強い力や衝撃を与えない

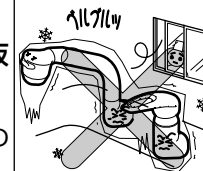
破損して、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行

凍結が予想される場所で使用する場合は、配管部に保温材を巻く
また、寒冷地用の場合は、「8」寒冷地用の水抜き方法を参照し、凍結予防を確実にを行う

部品が破損し、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。



2

仕様

給水・給湯圧力	最低必要水圧	0.07MPa(流動圧)
	最高水圧	0.75MPa(静水圧)
使用最高温度		85℃以下
使用可能水質		水道水および飲用可能な井戸水
使用環境温度	一般地用	1~40℃
	寒冷地用	-20~40℃ (ただし、0℃以下は水を抜いた状態)
用途		一般住宅台所用

3

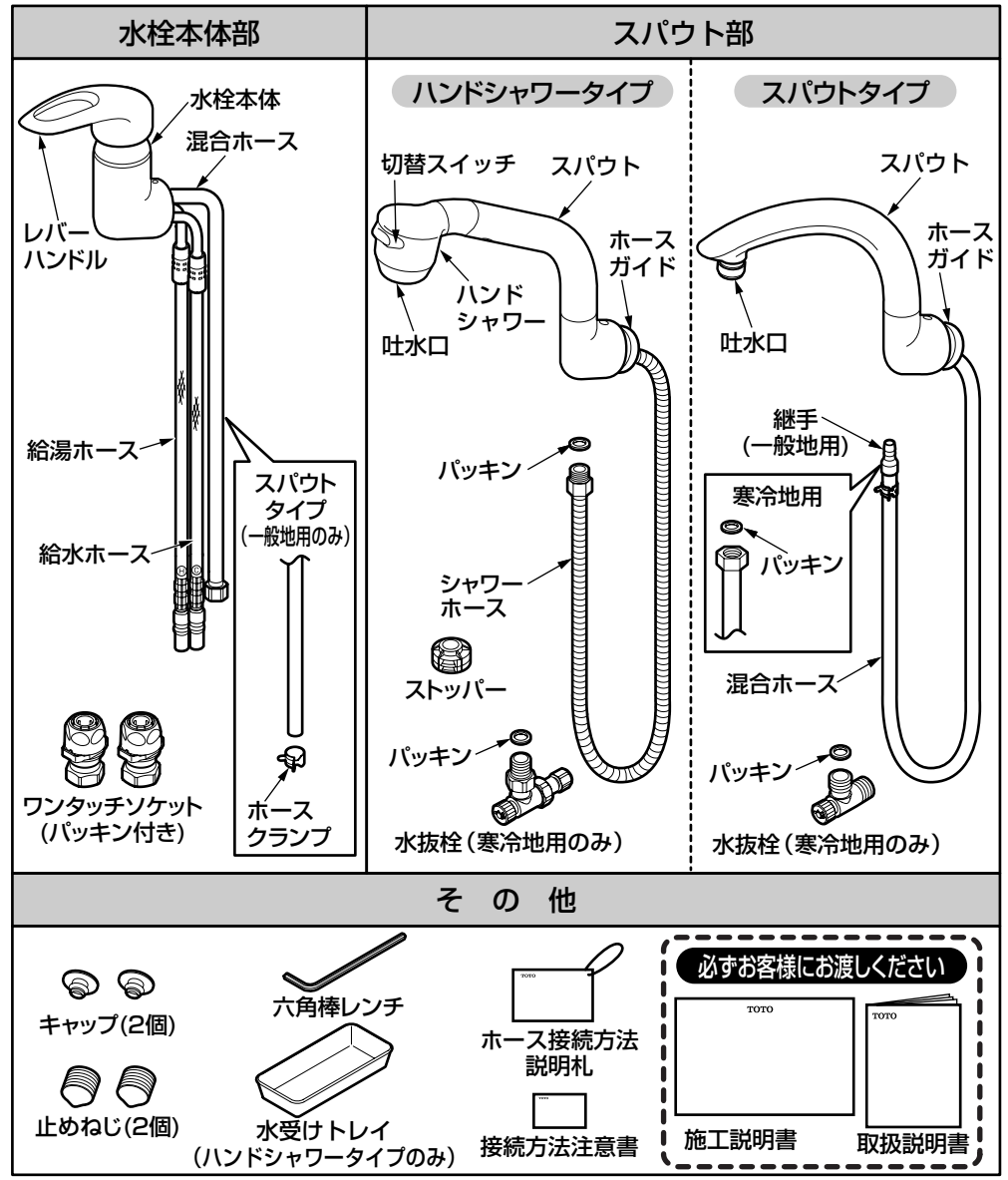
取り付け前に

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2~0.3MPa程度に減圧してください。快適に水栓をお使いいただくためには、0.2~0.3MPa程度の圧力をおすすめします。
- 誤操作などによるやけど防止のため、給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。また、湯側を加圧する場合でも、必ず湯側圧力を水側より低くしてください。
- 給湯機からの給湯管は、抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
- 水勢調節および器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ずご用意ください。
<止水栓推奨位置>
 - ・高さ方向：床から480mm
 - ・水平方向：給水（水栓本体中心より右に270mm）
給湯（水栓本体中心より右に170mm）
- 梱包前に通水検査をしていますので、商品内に水が残っている可能性があります。商品には問題ありません。

4

部品の確認

次の部品があることを確認してください。



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
※取付金具はキャビネット側にセットしており、水栓には同梱しておりません。

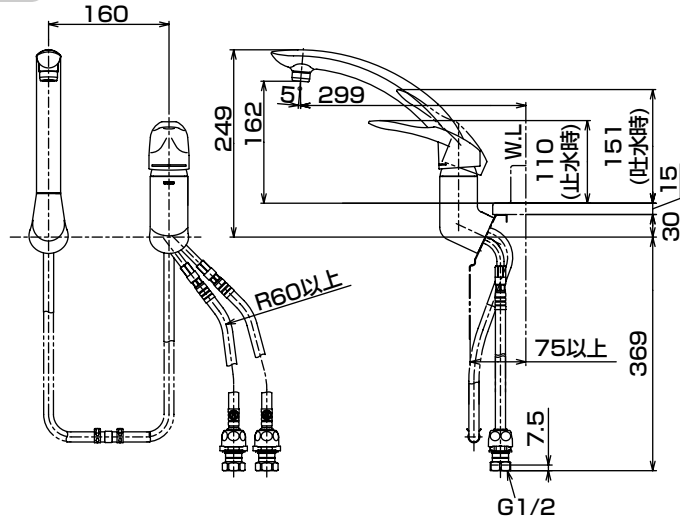
5

完成図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

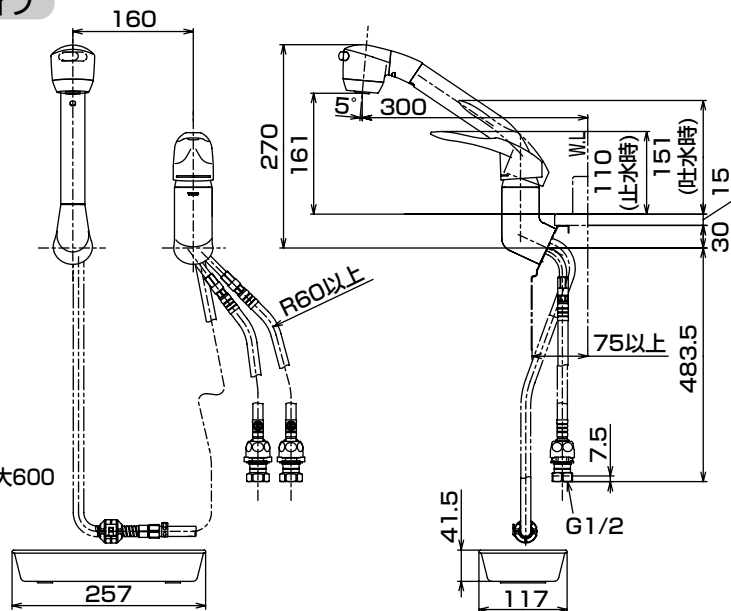
スパウトタイプ

TK50型



ハンドシャワータイプ

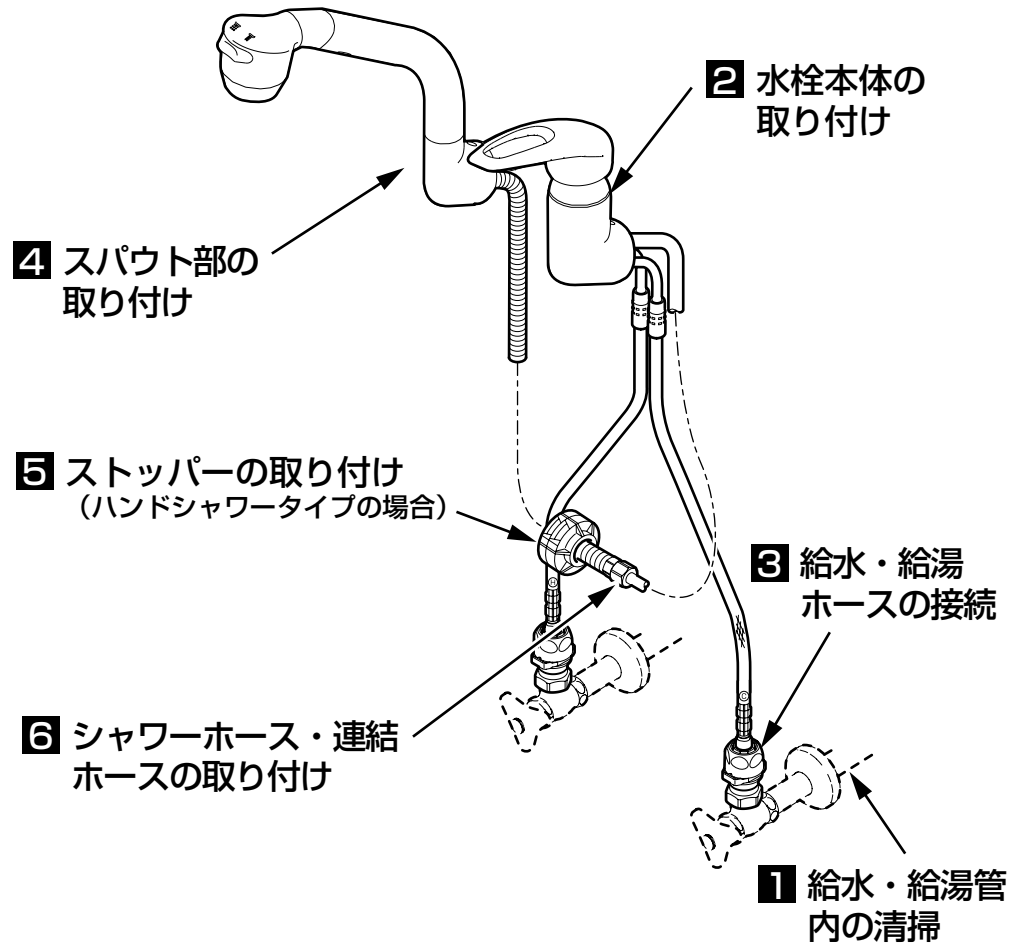
TK51型



シャワーホース引出長さ最大600

6-1

施工手順



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

1 給水・給湯管内の清掃

取り付ける前に必ず給水・給湯管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。

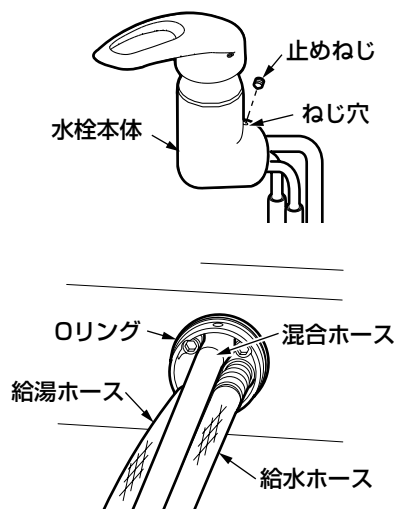
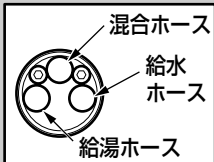
重要

2 水栓本体の取り付け

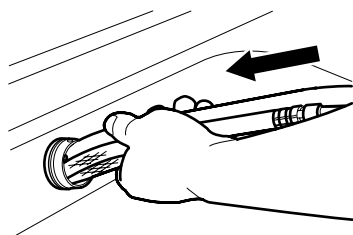
- ① 止めねじを水栓本体のねじ穴に仮ねじ込みする。
ねじは、内側に出ないようにする。
- ② シンクの取付金具のOリングにごみなどがついていないことを確認する。
- ③ 給水・給湯ホースと混合ホースなどをそろえてシンクに向かって右側の取付金具に挿入する。

注意

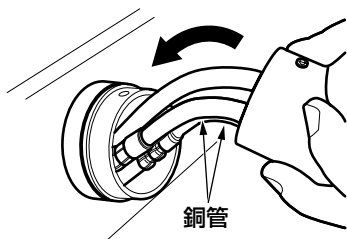
ホースは交差しな
いようにそろえて
挿入してください。



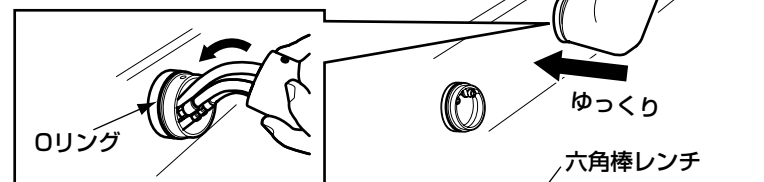
- ④ ホース先端がキャビネットに当たりますので、なるべくホース先端が下向きになるように手でホースを送り込みながら、挿入する。



- ⑤ 給水・給湯ホースが銅管につながるところまで挿入できたら、本体をささえながら銅管の曲がりに沿うように本体を押し込む。



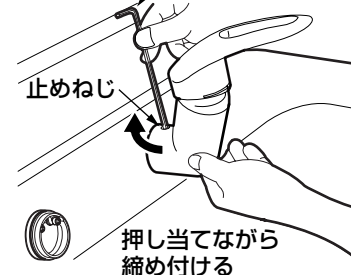
- ⑥ 本体が取付金具まで挿入できたら、本体の根元がシンクに接するまで取付金具にゆっくり押し込む。
※入りにくい場合は、取付金具のOリングに水などをつけると入りやすくなります。



- ⑦ 本体の向きを合わせて本体をシンクに押し当てたまま、六角棒レンチの長い方を使って止めねじを締め付ける。

注意

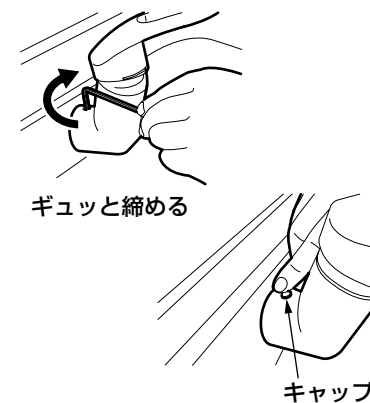
締め付け後、本体がまっすぐに取り付けられていることを確認ください。



- ⑧ 六角棒レンチの短い方を使って増締めして確実に固定する。その後、止めねじのキャップを押し込む。

注意

本体が確実に固定され、ガタがないことを確認ください。



3 給水・給湯ホースの接続

①ワンタッチソケットを止水栓に固定する。

注意

ワンタッチソケットに貼られたシールをはがさないで取り付けてください。そのままでもホースを差し込めます。

②給水・給湯ホースに**異物の付着がないこと**を確認し、ワンタッチソケットに**まっすぐ奥まで(カチッと音がするまで)**確実に差し込む。確実に差し込まれていない場合、水漏れの原因となります。

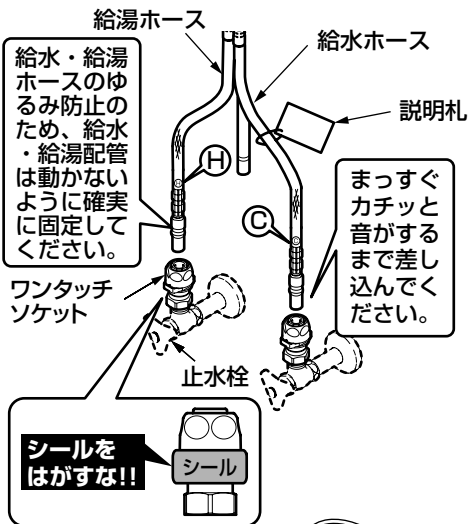
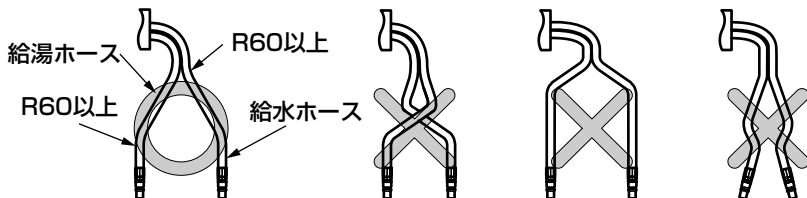
この際、同梱の「**ホースの接続方法**」の説明札を必ずホースに通してください。

③ホースを**まっすぐ引っ張って外れない(抜けない)**ことを必ず確認する。

施工後、万が一給水ホースを外した場合は、「**ホースの接続方法**」の説明札を確認のうえ、必ずワンタッチソケットと給水ホース内の残水を抜いてから給水ホースを差し込んでください。

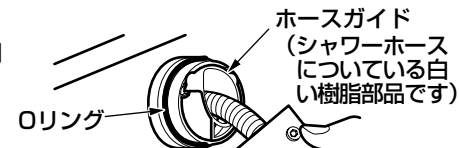
給水・給湯ホース施工上の注意点

- ホースを**必要以上の力で曲げて折らないように**注意してください。ホースの**最小曲げ半径は60mm**です。それよりも小さく曲げて使用しますと、十分な流量が出ない場合や破損・水漏れのおそれがあります。
- ホースを**水栓本体端面から極端に屈曲して施工しないで**ください。
- ホースを**無理に引っ張らないで**ください。ホースが折れる可能性があります。
- ホース同士の**不要な接触は避けて**ください。外部補強層の摩擦による外傷でホース性能の劣化の可能性があります。

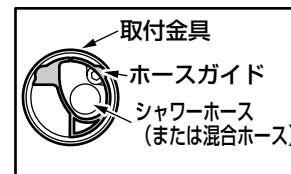


4 スパウト部の取り付け

①本体と同様に止めねじを仮ねじ込み後、向かって左側の取付金具に挿入する。ねじは、内側に出ないようにする。

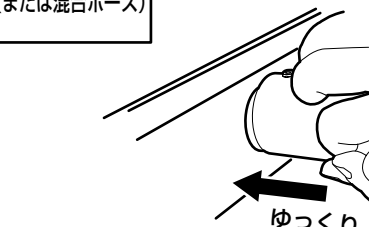


②シャワーホースをほぼ挿入したところでホースガイドを取付金具の形状に合わせて差し込んでください。

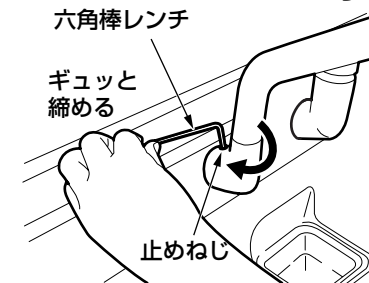


③スパウト部を根元部がシンクに接するまで取付金具にゆっくり押し込む。

※入りにくい場合は、取付金具のOリングに水などをつけると入りやすくなります。



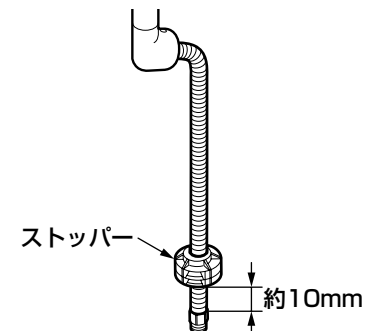
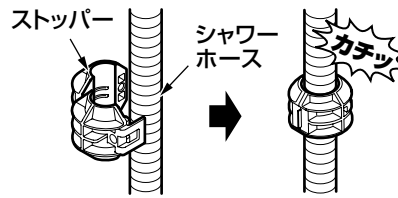
④スパウト部の向きを合わせてスパウト部をシンクに押し当てたまま、「**2**水栓本体の取り付け」の⑦⑧と同様に六角棒レンチで止めねじを締め付けたあと、キャップを押し込む。



5 ストッパーの取り付け (ハンドシャワータイプの場合)

右図の位置にストッパーをパチンとはめ込む。

〈ストッパーの取り付け方法〉



6 シャワーホース・混合ホースの取り付け

一般地用の場合

ハンドシャワータイプ

混合ホースにシャワーホースを接続する。

注意

パッキンをなくさないように注意してください。

スパウトタイプ

本体側混合ホースにホースクランプを通したあとスパウト側混合ホースの継手に押し込み、ホースクランプで固定する。

注意

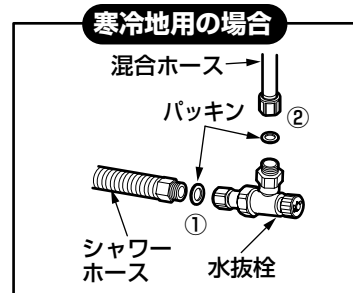
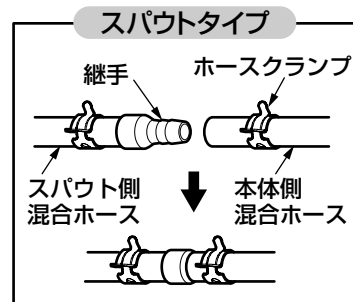
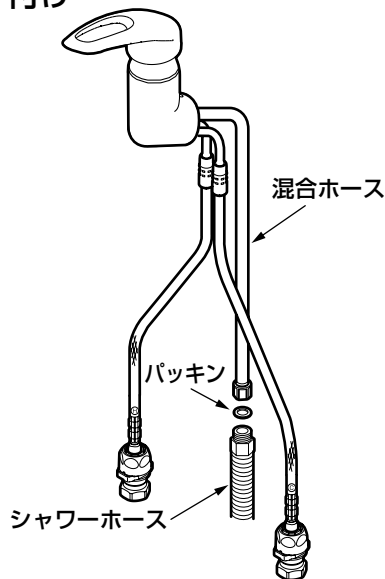
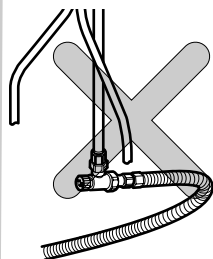
- 混合ホースは継手の根元まで差し込んでください。
- 各ホースがからまないように注意してください。

寒冷地用の場合

- ①シャワーホースを水抜栓に接続する。
- ②混合ホースに水抜栓を接続する。

注意

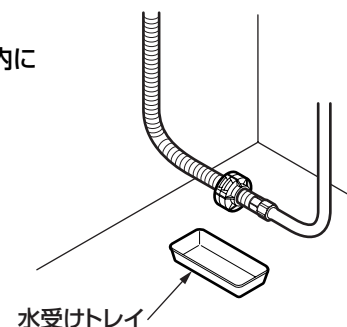
シャワーホースの水抜栓の取付方向に注意してください。(シャワーホースが曲がっていたら直してください)



7 水受けトレイの取り付け

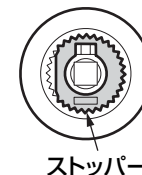
水受けトレイは万一、ホースの伝い水がキャビネット内に落ちた場合の受け皿となります。

- ①キャビネット床面のごみ、ほこりを取り除く。
- ②水受けトレイ底面の接着テープの紙をはがし、キャビネット床面に強く押し付けて固定する。
※できるだけ水栓本体の真下に設置してください。
※品番によっては、水受けトレイは同梱されていません。

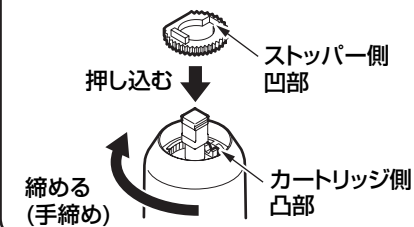


8 レバーハンドルの取り付け

- ①ストッパーの浮きや外れがないか確認する。
※浮きや外れがある場合はカートリッジ側凸部とストッパー側凹部を合わせ、押し込んでください。

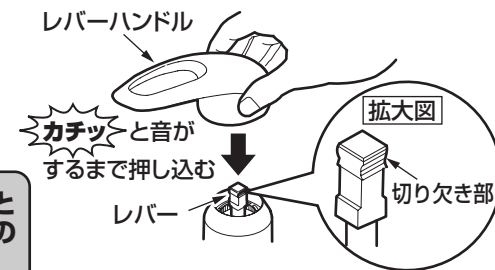


〈浮きや外れがある場合〉



※カートリッジ押さえ歯とストッパーの歯が合わないときは、カートリッジ押さえを**締め込む方向**にて歯を合わせるように調整してください。

- ②レバーハンドルとレバーの方向に注意し、押し込む。
- ③レバーハンドルが容易に抜けないことを確認する。

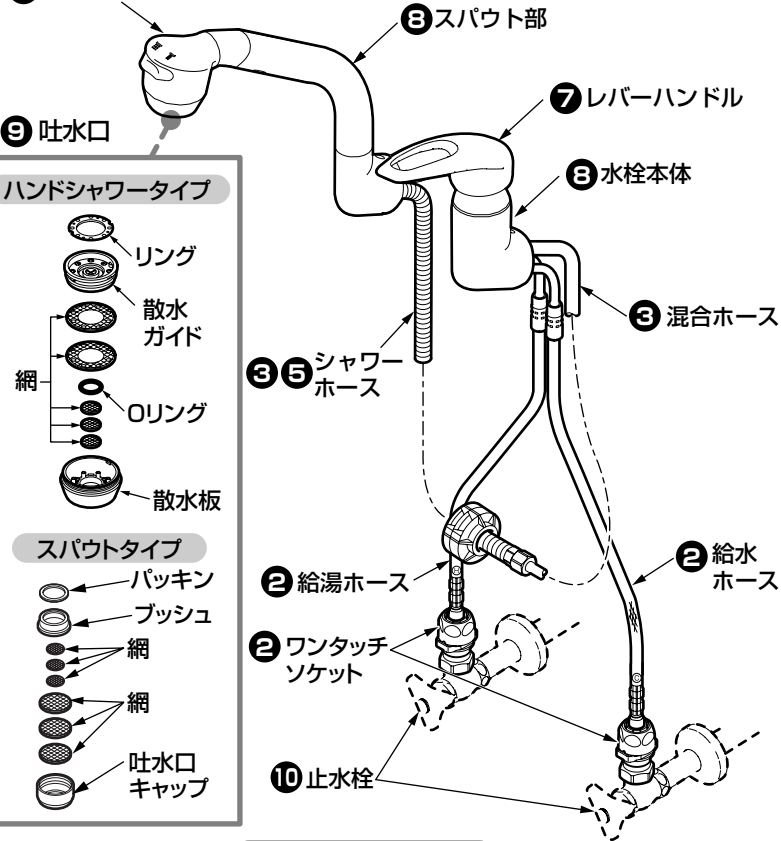


注意

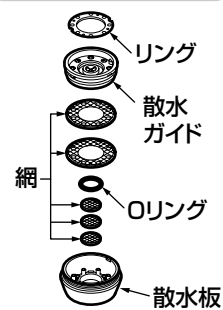
レバーハンドルとレバーの切り欠きと方向に注意してください。レバーの切り欠きは**両サイド**にあります。

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。

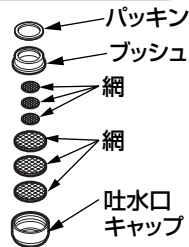
① ハンドシャワー



ハンドシャワータイプ



スパウトタイプ



動作確認

ハンドシャワーの動作を確認してください。

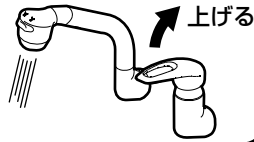
① ハンドシャワーはスムーズに引き出し、および収納はできますか？

↳ 6-4 - 5 「ストッパーの取り付け」参照

↳ シャワーホースが止水栓などに干渉していないか確認する。

水出し確認

配管部の元栓を開け、スパウトから水が出るか確認してください。



水漏れの確認

水漏れがないか確認してください。

② 給水・給湯ホースはワンタッチソケットにしっかり差し込まれていますか？

↳ 6-3 - 3 「給水・給湯ホースの接続」参照

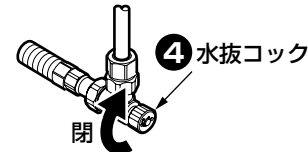
③ シャワーホースおよび混合ホースは確実に取り付けていますか？

↳ 6-4 - 6 「シャワーホース・混合ホースの取り付け」参照

寒冷地用の場合

④ 水抜コックは、しっかり閉まっていますか？

↳ 水抜コックを閉める。



⑤ シャワーホースは水抜栓にしっかり接続されていますか？

↳ 6-4 - 6 「シャワーホース・混合ホースの取り付け」参照

ガタツキの確認

ガタツキがないか確認してください。

⑦ レバーハンドルはしっかり差し込まれていますか？

↳ 6-4 - 8 「レバーハンドルの取り付け」参照

⑧ 水栓本体およびスパウト部の止めねじのゆるみはないですか？

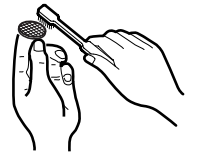
↳ 6-2 - 2 「水栓本体の取り付け」参照
↳ 6-3 - 4 「スパウト部の取り付け」参照

流量および吐水温度の確認

流量が少ないときや、温度調節がうまくできない場合は、次の項目を確認してください。

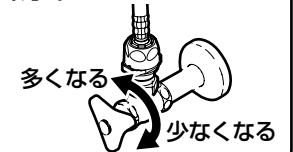
⑨ 吐水口のごみ詰まりはないですか？

↳ 吐水口の掃除をする。



⑩ 止水栓は開いていますか？

↳ 止水栓で流量を調節する。

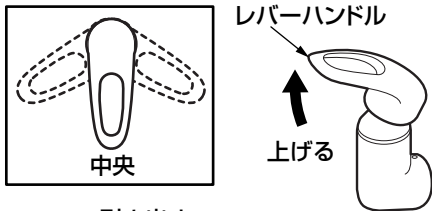


8

寒冷地用の水抜き方法

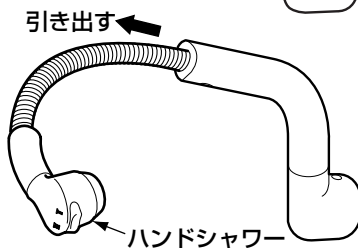
凍結が予想される時期に施工された場合は、水抜きを行っておいください。
またお客様にも水抜き方法をご説明ください。

1. 配管部の水抜き栓などにより通水を止めて、水抜きを行う。

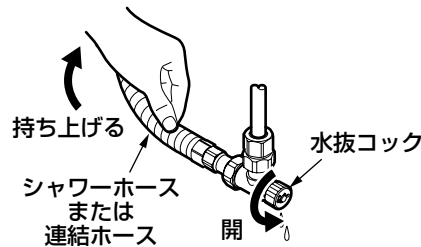


2. レバーハンドルを中央位置で上げる。

3. (ハンドシャワータイプの場合) ハンドシャワーをストップするまで引き出す。

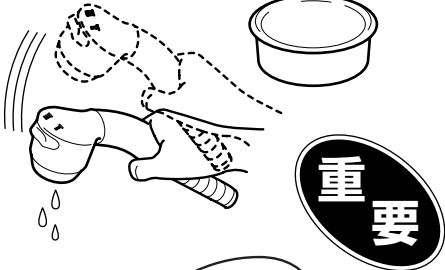


4. 水抜きコックの下に水受け容器(洗面器など)を用意し、水抜きコックを開ける

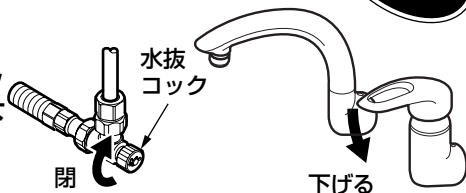


5. シャワーホースまたは連結ホースを持ち上げホース内の水を抜く。

6. (ハンドシャワータイプの場合) ハンドシャワーをよく振って水を切ってから洗面器の底に置く。



7. 水抜き完了後は、必ず水抜きコックを閉め、レバーハンドルを下げる。(水が出ない状態)



9

使用上の注意

ご使用中に以下のような現象が発生することがありますが、**故障ではありません。**
お客様に十分ご説明ください。

現象	説明
使いはじめに比べて、しばらく使用すると、ハンドル操作が重く感じる。	ご使用により商品内部の部品がなじみ、安定したことによるもので、故障ではありません。

※同梱の取扱説明書などは、必ずお客様にお渡しください。

再生紙を使用しています。